

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年 8月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202585		
法人名	有限会社 再輝堂		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	広島市安佐南区相田2丁目15-19 (電話) 082-832-7110		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年7月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>基本理念（和顔愛語）の下、「皆がいつも楽しく過ごせるように、和やかな笑顔での介護、愛しい言葉での介護」を心掛けています。季節の行事を大切にし、花や野菜を手にとっていただいたり、庭や窓辺に花を植えたり、四季を感じ、五感を大切にするケアを実践しています。食事は最後まで、お口から摂取して頂ける様に、その人に合った形態での食事を3食手作りで提供しています。「ここに来て良かった!」と思って頂ける様に、スタッフ一同取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>町内会に加入し、毎日の暮らしの中で、回覧板の閲覧や地域行事の参加、清掃活動などに参加し、利用者一人ひとりが地域住民の一員として交流を深めている。避難訓練の参加もあり、有事の際の協力体制も築いている。法人医療機関がかかりつけ医であり、日頃から体調管理や経過観察など健康面に関しても整っている。終末ケアは看取り経験豊富な職員がおり、全職員が共に実践する事で、多くの知識を得る事ができ、今後に向けての支援に繋げている。日頃の支援の中で季節感を五感で味わって貰えるよう、四季折々の行事や行事食には、押し寿司、おはぎ、柏餅、団子作り、時には庭に出での食事会など笑顔が喜びに繋がる取り組みをしている。基本理念の「和顔愛語」をもとに、職員同士の信頼関係を築き、サービスの向上に尽力している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の申し送り時は、「和顔愛語」を確認し、今日も一日笑顔で接する様に、ミニミーティングを行っている。	開設時からの基本理念「和顔愛語」を目に付く所に掲示し、職員も基本理念を記したカードを所持し、周知している。朝の申し送りや業務の中で、全員が笑顔で優しい言葉遣いを毎日の目標に掲げ、利用者の思いに寄り添う支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者全員、町内会に加入して、町内の行事、とんど祭り、町内清掃、いきいき100歳体操などに参加している。「福寿草だより」を町内会に回覧して、ホームの状況を理解して頂いている。近所の方に、お花や野菜を頂いたり、敬老の日には、町内会から祝福されている。月1回のいきいきサロンにも行ける人は、参加して交流している。	町内会に加入し、利用者一人ひとりが町内会費を納め、町内会の一員になっている。事業所だよりを回覧し、日頃の様子など報告をしている。回覧板や住民からの情報を得て、ごみ収集所へのごみ出しや清掃活動、いきいき100歳体操など地域行事の参加で交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会との交流を通じて、認知症の人の理解や支援の在り方を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎の推進会議に家族の参加は呼びかけしているが、なかなか参加して頂いていない。ホーム内で、利用者と職員でおやつを作り、お茶会を開いたりしている。通報訓練、避難訓練の時には、消防署職員、包括支援センターの職員、町内会長などに立ち会って頂き、反省会で、御意見、感想、助言など頂いている。	家族に運営推進会議参加の呼びかけをするが、出席は得られていない。資料等送付し、状況報告をしている。年1回運営推進会議開催時に避難訓練を行い、消防署の立ち合いのもと、町内会長、住民参加で行い、意見交換の場を設け、気付きや指導、助言が今後に活かせるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市、区の介護保険課や地域包括支援センターなどに相談させて頂いたり、生活保護の方の受け入れも行っている。生活課とは色々情報と交換を行っている。後見人や後見補助の方とも情報交換を行っている。	日頃から介護保険課や地域包括支援センター職員とは事業所の状況報告などを通じて情報交換をしている。生活課職員からの助言により、家族に説明し、了解を得た上で、手続きは事業所が行い、身体障害者手帳の交付に至った例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」をスタッフ一同で共有し、実践に努めている。しっかり声掛け、見守りを行い、玄関の施錠は、夜間のみしている。</p>	<p>研修や委員会で、センサーや柵の使用による弊害などを正しく理解し「身体拘束をしないケア」を実践している。スピーチロックなど言葉による拘束など、職員同士がその都度注意しあえる取り組みをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>基本理念（和顔愛語）のもと、スタッフ全員で虐待防止に努めている。ミーティングや研修の動画など見て、各自自己啓発を行う様に、スタッフ同志も声を掛け合い、1人で抱え込まない様にしている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されている方が3名いらっしゃる。毎月面談している。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、運営規程など説明して、納得して入所して頂く様にしている。</p>	/	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>毎月一度、ご家族に利用者の状況など報告して、御意見、要望など聞く様にしている。玄関入口に意見箱を設置して、いつでも受入れられる様にしている。</p>	<p>毎月の手紙や往復はがき、写真付きの便りの郵送やメッセージ共有アプリ（ライン）を使用して日頃の様子を伝え、意見や要望が聞けるように努めている。時には家族からの品物が届き、利用者の表情を写真で伝えるなどしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	いつでも職員の意見、要望は聞き入れられる様に配慮している。スタッフ同志、何でも話せる関係作りに努めている。	ケアをする中でオムツの使い方など職員からのアイデアや提案が改善に繋がった例やシフト変更など、何時でも、何でも話せる関係性を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見を聞いて、可能な限り改善に努めている。家庭の事情等を聞き、可能な限り、シフトの配慮を行っている。処遇改善手当は、勤務状況や労働時間を考慮し、皆が納得出来る様に分配している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人員の関係で、外部の研修を受ける事は出来ないが、内部でミーティングや働きながら身に着けて行く様に、スタッフ同志声掛け合って、助言や学びを行っている。看護学校や准看護学校の生徒もシフトを配慮し、働きながら学べる様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム協会に加入して、情報交換を行っている。地域包括支援センターとも交流し、助言を頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の希望などを聞いて、職員間で共有し、信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望などを聞いて、職員間で共有する為、ケアプランに取り入れて、信頼できる環境作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の希望などをしっかり聞いて、的確に把握し、対応する様に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は暮らしの中で、利用者の方から料理や歌を教えてもらったりする事もある。洗濯物を一緒にたたんだり、お部屋の掃除を一緒にしたりして、出来る事は一緒に行う様に、心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の日々の様子をラインやメール、写真で送ったり、電話で話したりと、職員が間に入って関係を支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ラインを通じて、日常の写真を送ったり、手紙や年賀状など、職員が手伝って、なじみの関係を保てる様に支援している。</p>	<p>住み慣れた自宅へ行きたい希望や自治会のいきいき100歳体操参加、清掃活動、訪問美容の2か月に1回の来訪など利用してからの新たな馴染みの関係の継続支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同志の関係性を把握して、席の配慮など、お互いに関わりが保てる様に、職員が間に入って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	手紙や電話、メールなどで連絡を取り合う様にしている。「あの時小学生だった孫がもう大学生になったんよ」などと聞く事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から、本人の好みや得意な事などを話題にして、本人が何をしたいのかを把握する様にしている。本人から聞き出せた情報は、職員全員で共有し、ケアプランにも取り入れている。	毎日のおかずの希望の確認や誕生日、行事などで食べたい物、好物や何をしたいか等、思いの把握をしている。宮島に行きたい希望があり、職員と一緒に行く事ができた。把握が困難な利用者はアイコンタクトを交わし、表情で思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの経験や暮らしを把握して、役割や出番など場面作りをしている。例えば、お米とぎ、つくろい物、ボタン付等、お願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの体調や、ペースに合わせて、日々を笑顔で穏やかに過ごして頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、利用者の状態に合わせて見直しを行い、特に変化がない場合でも、1年に一度アセスメントを行い、本人に合わせたプランを再作成している。担当者会議やモニタリングは、家族及び職員と一緒に、現状に即したプランになっているか検討し、それぞれの意見、アイデアを出し合っている。</p>	<p>3ヶ月毎のモニタリングは全職員で検討を行い、特に短期目標は職員の意見やアイデア、提案が活かされた介護計画を作成している。状態に変化があれば、医療関係者など各分野の意見を反映した、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の状態が把握出来る様に、具体的な記録をしている。情報は、職員で共有しながら実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その場の状態、状況に応じて臨機応変に行動、対応する様に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内の方、消防署、コンビニなどに協力して頂く様に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要に応じて、協力医の往診、診察を受けている。希望されるかかりつけ医などの受診は、職員の同行、支援している。</p>	<p>殆どの利用者が法人医療機関がかかりつけ医である。ほぼ毎日来訪がある。他科の受診は職員同行で支援している。月2回の訪問歯科の診察は口腔ケアも含めて全利用者が受診している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日、医師の回診があり、必要な時は、医師が看護師と同行されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、ホームから入院先に面会訪問したり、病院とのカンファレンスに参加したりして、状態の把握や退院後の方向性について、家族や病院関係者と話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	一応入居時に「終末期のあり方」について、聞き取りしている。ある時期がきたら、再度家族にお話しし、ホーム内で出来る事を説明して、理解を得た上で、スタッフ一同、支援に取り組んでいる。	利用開始時に「終末期の在り方」について説明している。その後看取りに入る段階で説明し確認している。看取りの事例が多く、管理者が泊まり込みも行っており、職員と一緒に利用者が穏やかに過ごせるよう支援している。職員は終末期ケアの研修として実践しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルは、常時見れる様に準備してある。初期対応等は、ホーム内で訓練する様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、通報及び避難訓練を行い、スタッフ一同、周知している。町内会の活動に参加して、有事の時の協力もお願いしている。	年2回夜間想定避難訓練をしている。そのうち1回は消防署の立ち合いのもと町内会長、住民の協力を得て訓練をしている。通報や初期消火、実際に2階から階段を使っての1階への移動など訓練を行い、反省会において意見、指導、助言を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員会議で徹底している。日々の会話では、基本理念に基づき、優しい言葉かけに努めている。	呼称は利用開始時に本人、家族と相談して決めている。家庭的な雰囲気の中で基本理念を修得し、人格の尊重とプライバシーを損ねない声掛けの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望に出来るだけ実行出来る様にする。例えば、宮島に行きたいと強い希望を持たれていた方に、スタッフが同行、実施出来た例もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、生活して頂ける様に支援している。出来るだけ、本人の希望を聞いて、希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みの衣服や、格好が出来る様に、自分で服を選んで着て頂いている。訪問理容美容を受ける際は、本人の希望（丸刈り、スポーツ刈り、おかつぱ等）を取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューは、利用者と相談して決めたり、野菜の皮むきなど、手伝ってもらったりしている。誕生日には、好みの献立を用意したり、手作りのケーキでお祝いしている。	献立は利用者と相談して決めている。個々に合った食事形態や野菜の皮むきなど利用者のできる事、出来そうな事を職員と一緒にやっている。誕生日ケーキ、行事食としておはぎ、押し寿司、雛御膳、年越しそばなど食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの希望や状態に応じて、その人に合った食事の提供をしている。例えば、朝食はご飯、粥、トースト等、栄養のバランスを配慮している。水分や食事の摂取量は記録し、把握、管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>定期的に歯科医、衛生士の訪問を受け、検診、口腔ケア等して頂き、スタッフにも助言、指導して頂いている。食後、うがいや歯磨きなど、個々に応じて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録を残し、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導、排泄介助など支援している。</p>	<p>羞恥心の強い利用者に対して、トイレの中に入ってから支援が難しい利用者にも、根気よく声掛け、サポートを行った結果、信頼関係ができた例がある。自然排便に繋がるよう、根菜類や寒天を使用するなど、便秘予防の対応をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>植物繊維を多く含む食品を食材を取り入れたりと、水分補給や体操するなど、便秘予防の取組をしている。排泄の記録は把握している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>二人体制で、入浴時は、一人ひとりの時間をとり、入浴して頂いている。声掛けしながら背中を流したり、シャワーをかけた支援している。入浴の順番は、ローテーションしている。</p>	<p>利用者、一人ひとりに合った入浴方法をしている。基本週2回で利用者の個々の体調や状態を把握し、曜日を定め、浴槽に浸かる、シャワー浴、足浴など個別に対応している。ゆず湯や入浴後の着替えを職員と一緒に選ぶなど入浴を楽しむ支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースに合わせて休憩したり、活動したりされる様に支援している。リビングや廊下にソファを置いて、自由にくつろげる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指導の下、確実な服薬支援の為、再度、服薬前に氏名を確認の上、個々に手渡しで服薬してもらっている。症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者それぞれの得意とするもの、出来る事など把握して、役割や楽しみを持って生活出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	庭に出て日光浴したり、花を見たり、野菜の収穫をしたりしている。年1回の桜のお花見に全員で出掛けている。宮島に行きたいと願望されていた方、スタッフ同行にて実施。	初詣、町内会のとんど祭り、春は花見、夏は神社の茅の輪くぐり、野菜、柿の収穫などを行い、季節を感じてもらう支援や宮島に行きたい希望の利用者が職員と一緒に出かけるなど、できるだけ要望が叶えられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者や家族の希望に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や友人に手紙、電話など、希望に応じて支援している。遠方の方には、ラインやメールで写真を送ったりしている。台湾にいらっしゃる娘さんやお孫さんとは、ビデオ通話したりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご自宅の様な雰囲気、落ち着いた過ごせる様に支援している。玄関や廊下には、季節を感じられる様な飾り付けをしたり、作品の掲示をしている。</p>	<p>日中は共用空間で過ごし、四季を感じるよう作品の展示や机、椅子、ソファなど車いす移動や動線に支障がないように広く配置されている。感染症予防対策や空調管理、時々職員の愛犬が来訪している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>好きな場所で、自由に過ごせる様に、ソファを置いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用されていた馴染みの物を持って来て頂いたりして、安心して居心地よく過ごせる様に配慮し、部屋作りは、本人や家族にしてもらっている。ソファやテレビも設置されている。</p>	<p>全室が和室にベットを配置してある。各々が自宅で使い慣れた物や好みの物を持参し、犬好きの方は大きな犬の縫いぐるみ、居室の中央に大きなテーブルの配置や窓に布団を干すなど家庭的な雰囲気の中で、意心地よく過ごせるよう工夫した居室作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体状態に応じて、安全に過ごして頂ける様に、手摺を設置したり、階段では昇降機を設置して、利用を支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム福寿草

作成日 令和5年9月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2ヶ月毎の推進会議に家族の方の参加が得られない。	家族への方の呼びかけの強化。	季節の行事や、誕生日会などに合わせて、家族の方の参加を呼びかけ、一緒に行うようにする。 曜日や時間も変えてみる。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。